

小さな SOS

7月に亡くなった教育者で僧侶の無着成恭さんは、山形県山元村（当時）の中学校に着任した際のあいさつで大演説をぶちました。「学校を勉強するところなどと考えるなら大馬鹿者だ。学校は楽しく生活する場なのだ。」師範学校を出たばかり、21歳の新米教師です。教え子だった作家の佐藤三郎さんが最も印象に残った言葉だったと書いている。（「山びこ学校物語」）。

戦後間もない頃の寒村です。通学がままならない生徒もいました。ベストセラーになった文集『山びこ学校』には「みんなのように学校にゆけたらな」と焦がれつつ、炭焼に汗を流す男子の作文が載っている。

もうすぐ夏休みが終わります。すでに授業が始まった地域もあります。級友との再会を待ちわびる笑顔の一方、カレンダーを横目に漏れるため息もあろう。この時期、自ら命を絶つ子供が増えるという。学校だけが理由ではないかもしれぬが「楽しく生活する場」が見つからなかった末の選択だとすれば、なんともやりきれない。

後年、ラジオの電話相談でたくさんの子供の「なぜ」に答えた無着先生は「平成に入った頃から質問がつまらなくなった」と憂い、その原因は正面から子供に向き合おうとしない親や教師にある、と説いた。少しだけ腰をかがめ、小さな SOS や疑問に耳を傾けたい。大人に与えられた、夏の終わりの大切な仕事です。

鎌野



ありがとう

大谷翔平選手が右肘の靭帯を損傷したとのニュースを聞き、なんだか何もかもやる気が一瞬失せてしまった。大谷ロスになりかけた自分に気づいた。しかし、今シーズンは投手としては登板しないものの、引き続きバッターとしては出場するというのを聞き、少しだけホッとした。僕のような人は沢山いると思う。それだけ、彼の影響力は大きく、彼もそれを知っていたからこそ、無理をしてでもファンのことを思い、出場し続けるのだと思う。

彼は常に野球を楽しんでやっているのが、観ていればわかる。今年の夏の甲子園で優勝した慶応高校の選手たちも、野球を楽しんだという。このところ日本の選手が世界で活躍できるようになってきたのは、その辺の心の変化ではないかと思う。今シーズンは、おそらく今後の試合を総て欠場しても、ホームラン王と MVP は間違いないだろう。彼のキャリアでおそらく最高のシーズンとなるだろう現在。投手で 10 勝、ホームラン 44 本、打点 92、盗塁 19 個。夢のような数字だ！ファンとして、彼の今後に期待するとともに、この様な素晴らしいシーズンを目撃できたことに感謝しかない。

大谷翔平選手、ありがとう！！

英樹



配り

第 291 便

勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室
TEL (0550) 87-0048
FAX (0550) 87-1237
〒412-0035 静岡県市中山518番地

縁側のレースのカーテンシヤリシヤリと
折り畳んでいる残暑の風が
ねがみともみ



かぜで伏す吾を案じて冷タオル額ぬかにのせくれし夫のやさしさ

林 なをみ



苛立てる心のままに友に抗議たちまち落ち入る自己嫌悪なり

勝亦 りつ子



四季？

ユーラシア大陸の東に位置し中緯度で温暖湿潤気候に属し、四季があり、春から夏へ移ろう時期には梅雨、秋の訪れを知らせる秋霖（しゅうりん）やすずき梅雨と呼ばれる秋の長雨。そうした二つの雨季がある。それが日本の気候なのです。いや、「これまでの日本の気候だった」と言う方が正解かもしれない。

18世紀にはじまった産業革命以降、人類の文明活動は石炭や石油などの化石燃料を燃やしエネルギーとし、今日まで成長を続けてきた。それは産業革命以前からの大気の組成を急激に変えてしまった。それにより地球全体の気候に大きな影響を与え始めた。

メタンや二酸化炭素などのいわゆる温室効果ガスの濃度がほんのわずか、0.数%上がり、海水温が数度上昇した。数字で表すとほんのわずかな値なのだが、それだけで世界中で干ばつや洪水、今までになかったような熱波や寒波が頻発するようになった。今年の夏は世界的に過去類をみないほどの暑い夏となってしまった。

異常気象により極地の氷や氷河は溶け出し、海水面は上昇し、地球の表面積の7割を占める海の環境は激変している。地球の気候の大きな流れを作るのはその海なのです。太平洋のエルニーニョやラニーニャ現象、インド洋のダイポールモード現象、大西洋でも過去類をみないほど高い海水温を記録し循環も滞っているらしい。それら異常気象の引き金とされる海水温異常がもはや常態化しているのかもしれない。

そうなるともはやこれは異常気象ではなくこれが通常になってきてしまうのではないか、熱中症リスクが高すぎて日中の仕事は出来なくなるかもしれない。夏の高温下での作業はもはや空調服無しでは考えられない。サマータイム制の導入も本格的に考える時期なのかもしれない。

と、難しい話をつらつらと書かせて頂いたのだが、暑いと冷たい飲み物食べ物をついつい食べ過ぎてしまう。お腹を壊しちになり、なおかつ体重も増えてしまうのをなんとかしたい。と滴る汗をぬぐいつつ、腹回りの脂肪と一緒に燃えろ！と願い、残暑厳しい夏を過ごしている僕です。



柳田 敏和

AI



チャット GPT、最近良く耳にします。人工知能“AI”を使ったチャット（インターネットを介してリアルタイムに会話ができる）サービスで、人間の質問に対してまるで人間のように自然でクオリティの高い回答をします。ということです。AI、人工知能は人間の知的振る舞いの一部をソフトウェアを用いて人工的に再現し、経験から学び（AIが）新たな人力に順応することで人間が行うように柔軟にタスクを実行する。

馴染みのある話は将棋のAI、将棋の戦いを経験、覚えさせ、人間と戦っているように将棋がさせる。

プログラムを作る。パソコンという機械が出始めた頃、1+2=3を覚えさせ3-2=1になり、計算に誤りがないかと検算させ表示する。人間の作るプログラムに間違いがなく、入力する人間が数字を間違わなければ機械（パソコン）に誤りはない。ということを経験した・・・プログラムを作るのは私には向かない、その筋の人がこれから沢山でしてくるからいいだろう、と思ったことを思い出した。AIはその延長上にあるものでしょうか。人間の子供と一緒にマッサラな状態で世に出て色々学習、経験して、どんな大人になるのだろうか、見守るわけですが、機械AIは感情がない、正確に処理することはできる、と思うのだが。例えばこれから先AIを使って人型ロボットが作られ、介護の現場で介護の補助ができるようになる。例えば人間では危なくて作業できない現場、原子力発電所とか、に入って作業できるようになる、というのは私でも考えられる先の話だと思う。ここで、ん？と考えるのは、仮にAIに介護の仕方を学習させ、人間には優しく接するようにとプログラムし、人の気持ちを考えろ！とプログラムさせることが可能となった場合、感情というものを勉強しAIが自身でものを考え判断する機能が、プログラムすればできるかも・・・。AIには大原則として人間に危害を与えてはいけない、殺してはいけないとプログラムするのだろうが、戦争で使用するとそのプログラムは外すだろう。AIは、プログラムされたことを実行する。機械をリセット、電源を切ればいいのだが、ここに切られないようにとプログラムを入れる、またはAI自ら考えるとなると・・・。まるで映画の世界のようだ・・・。プログラムするのは人間か・・・いや、AIになるかも

ねがみ



コロナ罹患

とうとうコロナに罹ってしまいました。6人家族中まず2人が罹り、気をつけてお世話をしていたつもりですが3人目の感染者となってしまいました。他の3人は、なんとなく頭が痛いような怠いような感じはあったものの顕著な症状もなく2週間ほどで我が家のコロナ騒ぎは収まったようです。付き添いで発熱外来を受診した時、続々と車が停まり感染が増えているのが感じられました。

世の中未知のウイルスだった頃に比べ、コロナに慣れてしまい油断していますね。感染予防には、依然うがい手洗いが有効ですが、最近丁寧さがかけていた気がします。有効なコロナ治療薬もありますが、罹らないことにこしたことはありません。この後、数ヶ月は抗体があるでしょうが、二度と罹りたくはないので、感染予防を心がけたいと思います。



祥子